

学年	ページ	開講科目
-	2	目次
1年	14	大学生活論
1年	37	脳性麻痺・運動発達の障害
1年	38	学習障害・発達障害
1年	44	臨床実習Ⅰ（見学実習）
2年	54	臨床神経学
2年	56	リハビリテーション医学
2年	58	形成外科学
2年	59	生涯発達心理学
2年	65	言語聴覚障害診断学
2年	72	器質性・機能的構音障害
2年	80	臨床実習Ⅱ（評価実習）
2年	82	動作分析の基礎
2年	84	保険診療・介護保険制度
3年	98	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）
3年	99	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）
3年	100	生命科学の基礎
3年	107	補綴・補装具論
3年	108	言語聴覚学特別講義Ⅰ
-	118	教員一覧、オフィスアワー

# 目次

言語聴覚学科 教育課程(カリキュラムマップ)	3
言語聴覚学科 カリキュラムツリー	4
1年生 年間予定表	6
1年生 シラバス	8

開講科目	頁	開講科目	頁
日本語表現法	8	言語学	27
英語 I	9	音声学	28
英語 II	10	音声表記・分析学	29
歴史と文化	11	音響学	30
現代の社会	12	言語発達学	31
暮らしの中の法律	13	言語聴覚障害学の基礎	32
大学生生活論	14	失語症概論	33
情報処理	15	高次脳機能障害概論	34
医学概論	16	失語症・高次脳機能障害 I	35
病理学	17	言語発達障害 I	36
解剖学	18	脳性麻痺・運動発達の障害	37
生理学	19	学習障害・発達障害	38
小児科学	20	運動障害性構音障害 I	39
臨床歯科医学・口腔外科学	21	摂食嚥下障害 I	40
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	22	成人・小児の聴覚障害	41
聴覚系の構造・機能・病態	23	聴力検査	42
神経系の構造・機能・病態	24	視覚聴覚二重障害・重複障害	43
臨床心理学	25	臨床実習 I (見学実習)	44
認知・学習心理学	26	自然科学概論	45

2年生 年間予定表	48
2年生 シラバス	50

開講科目	頁	開講科目	頁
英文抄読	50	言語聴覚障害診断学	65
統計学	51	失語症・高次脳機能障害 II	66
健康スポーツ学 I	52	言語発達障害 II	68
内科学	53	拡大・代替コミュニケーション	70
臨床神経学	54	音声障害	71
精神医学	55	器質性・機能的構音障害	72
リハビリテーション医学	56	運動障害性構音障害 II	73
耳鼻咽喉科学	57	吃音概論	75
形成外科学	58	摂食嚥下障害 II	76
生涯発達心理学	59	聴能・発語訓練演習	78
心理測定法	60	補聴器・人工内耳	79
福祉心理学	61	臨床実習 II (評価実習)	80
聴覚心理学	62	神経の診かた	81
社会保障制度・関係法規	63	動作分析の基礎	82
リハビリテーション論	64	口腔衛生論	83
		保険診療・介護保険制度	84

3年生 年間予定表	86
3年生 シラバス	88

開講科目	頁	開講科目	頁
基礎英会話	88	臨床実習IV (総合実習後期)	99
健康スポーツ学 II	89	生命科学の基礎	100
神経心理学	90	口腔顔面の感覚・運動障害総論	101
心理学系総論	91	地域リハビリテーション論	102
日本語文法学	92	認知症のリハビリテーション	103
言語聴覚障害学総論	93	疾病論	104
言語聴覚障害学臨床応用	94	リハビリテーション口栄養学	105
高次脳機能系総論	95	視覚言語論	106
聴覚障害学総論	96	補綴・補装具論	107
音と聴力	97	言語聴覚学特別講義 I	108
臨床実習 III (総合実習前期)	98	言語聴覚学特別講義 II	110

ナンバリング	114
教員一覧、オフィスアワー、成績評価	118
実務経験を有する教員の科目一覧	119

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HS0-01				
	●		●	●						
科目名	大学生生活論				単位認定者	櫻庭 ゆかり		授業内課題 (レポート)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康にかかわる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が会うところの問題等）を身につける。									
到達目標	1. 大学生・社会人として基本的なマナーを身につける。 2. 大学生生活を有意義におくるために知識やスキルを身につける。									
学修者への期待等	大学生生活が有意義なものになるように計画された科目である。各自の目標を達成するために積極的に学ぶことを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	大学生生活について1：建学の精神、本学科の教育方針、入学許可証授与、授業ガイダンス、授業の狙いと方針							櫻庭ゆかり		
2	大学生生活について2：教務関係ガイダンス、学業の到達目標について				学生便覧に目を通しておくこと(30分程度)			櫻庭ゆかり		
3	大学での学びについて1：何のために学ぶか。授業の受け方、ノートの取り方				事後) 自分なりの勉強の仕方をレポートにして次週提出すること。(40分程度)			櫻庭ゆかり		
4	大学生生活に関わる基礎知識1：消費者トラブルについて				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			SMBCコンシューマーファイナンス		
5	大学での学びについて2：①レポートのまとめ方 ②図書館の活用方法の講義と演習				事後) 学んだことをまとめ、次回提出のこと(40分程度)			櫻庭ゆかり 図書室司書		
6	健康にかかわる基礎知識1：からだの健康について(ドラッグ)の危険性など				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			学生総合支援センター、ダルク		
7	大学での学びについて3：国家試験合格に向けての勉強の仕方				事後) 国家試験についての具体的な計画を考えて次週提出すること(40分程度)			櫻庭ゆかり		
8	大学生生活に関わる基礎知識2：ネットの危険性について				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			仙台中央警察署		
9	健康にかかわる基礎知識2：体の健康について(睡眠・食生活など)				事後) 学んだことをまとめて次回提出のこと(30分程度)			保健室		
10	大学生生活に関わる基礎知識3：交通ルールとマナーについて				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			仙台中央警察署		
11	大学での学びについて：実習に向けての心構え。実習の概要と目的				事後) 実習について理解したことをまとめて次回提出のこと(40分程度)			櫻庭ゆかり		
12	言語聴覚士になるための心構え1. 言語聴覚士の仕事内容。何を求められているか。				事前) 自分の考えをレポートとしてまとめて提出すること(1時間程度)			櫻庭ゆかり		
13	言語聴覚士になるための心構え2. チームアプローチについて				事後) 学んだことをまとめて次回提出のこと(40分程度)			櫻庭ゆかり		
14	大学生生活に関わる基礎知識4：大学生のための主権者教育(選挙権)について				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			仙台市選管事務局		
15	大学生生活に関わる基礎知識5：大学で会うところの問題				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			学生総合支援センター		
教科書	参考資料を適宜配布するので1冊にファイリングすること。各授業での持ち物：シラバス、学生便覧									
参考文献										
備考	授業内容は状況に応じて変更する場合がある。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-03				
		●		●						
科目名	脳性麻痺・運動発達の障害				単位認定者	木村 有希 熊谷 美緒		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
				授業形態	講義	授業回数			15 回	
授業の概要	脳性麻痺は運動障害と発達の問題を包含している。本講義では、多様で複雑な障害像を呈する脳性麻痺を理解するために、原始反射・姿勢反応と運動発達との関連などを学修し、言語発達の問題や構音障害をはじめとする言語障害へのアプローチ、及び摂食嚥下障害に対するアプローチについて学ぶ。さらに、生涯にわたって変化していく障害像に対し、ライフステージに応じた対応や多職種でのアプローチについて紹介し、言語聴覚士としての支援について考える機会とする。									
到達目標	正常発達を理解したうえで、脳性麻痺の臨床像について説明できるようになる。 健常児と脳性麻痺児の運動の違いを理解し、各類型の姿勢と運動の特徴を説明できるようになる。 障害児(者)の摂食嚥下機能障害に対する評価及び発達療法的対応の基礎知識を習得する。 対象児(者)の生活における困難さを理解し、言語聴覚士としてどんな支援ができるのか考え、表現できるようになる。									
学修者への期待等	障害児(者)にかかわる言語聴覚士について理解する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	脳性麻痺とは① 定義、原因と臨床像				配布資料を提示する			木村 有希		
2	脳性麻痺とは② 姿勢と運動の障害とは				配布資料を提示する			木村 有希		
3	小児、心身障害児(者)を扱う視点				配布資料を提示する			千木良 あき子		
4	中途障害と心身障害児(者)の違い：形態発育と機能発達、加齢・疾病と機能低下、脳性麻痺の形態発育(口腔)の問題				配布資料を提示する			千木良 あき子		
5	摂食嚥下機能の正常発達と発達段階評価				配布資料を提示する			千木良 あき子		
6	脳性麻痺の臨床的病型① 痙直型・アテトーゼ型				配布資料を提示する			木村 有希		
7	脳性麻痺の臨床的病型② 低緊張型・失調型・混合型				配布資料を提示する			木村 有希		
8	代表的症例(脳性麻痺、知的能力障害、経管依存症、自閉症スペクトラム症)				配布資料を提示する			千木良 あき子		
9	口腔ケアの重要性と対応の基本、チームアプローチ				配布資料を提示する			千木良 あき子		
10	発達的变化 ライフステージにおける臨床像の変化				配布資料を提示する			木村 有希		
11	脳性麻痺の方の生活の理解、重症心身障害児(者)の理解				配布資料を提示する			熊谷 美緒		
12	コミュニケーション面の評価				配布資料を提示する			熊谷 美緒		
13	コミュニケーション面の訓練				配布資料を提示する			熊谷 美緒		
14	摂食嚥下機能面の評価				配布資料を提示する			熊谷 美緒		
15	摂食嚥下機能面の訓練				配布資料を提示する			熊谷 美緒		
教科書	『小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版』田角勝、向井美恵(編著) 医歯薬出版									
参考文献	『食べる機能の障害』金子芳洋(編)金子芳洋、向井美恵、尾本和彦(著) 医歯薬出版									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-04				
		●		●						
科目名	学習障害・発達障害				単位認定者	木村 有希 須賀川 芳夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	本講義では、学習障害・発達障害の歴史的背景、診断基準、支援の基本的な考え方を学修する。主に発達障害についての概観、知的発達障害、自閉性障害、学習障害（読み書き障害、算数障害など）、注意欠如／多動性障害（AD／HD）を取り上げ、それぞれの障害への理解を深める。また、臨床に必要な幼児の発達の基礎、言葉の育ち、幼児支援に対するアセスメントについて講義を通して学び、支援方法を身につける。									
到達目標	学習障害及び発達障害の定義や特性、支援の方法について理解を深める。									
学修者への期待等	講義内で学んだ発達障害・学習障害について基本的な内容を理解し説明することができるようになることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	発達障害の概念・定義							須賀川 芳夫		
2	知的発達障害の診断基準と支援/ダウン症とウィリアムズ症候群				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
3	当事者の声と心の理論				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
4	自閉スペクトラム症の基本症状				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
5	自閉症の概念の変遷				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
6	学習障害の定義と下位分類				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
7	自閉症児への支援				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
8	読み書きの困難、心理的疑似体験				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
9	読み書きの困難の評価				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
10	読み書きの困難への対応・支援				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
11	算数障害のサブタイプと支援				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
12	AD／HDの症状と二次障害				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
13	AD／HDの基本的な対応				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
14	幼児の育ち、言葉の育ちに必要なもの				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
15	幼児支援に関するアセスメント				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
教科書	「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学（最新版）」玉井ふみ、深浦順一編 医学書院									
参考文献	参考書：「健診とことばの相談」中川信子（著）ぶどう社 「教師のため合理的配慮の基礎知識」西村修一・久田信行（著）明治図書									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
	●	●	●	●	

<b>科目ナンバリング</b>
ST-2-CLT-01

<b>科目名</b>	臨床実習Ⅰ（見学実習）				<b>単位認定者</b>	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 鈴木 将太 木村 有希 中川 大介		実習先の評価： 知識・人物・適性	50 %	
<b>対象学科 必修・選択 配当年次</b>	言語聴覚学科	必修	1年	<b>開講時期</b>	後期	<b>単位数</b>	1 単位	<b>評価の方法</b>	学内の評価： 準備・報告書等	50 %
						<b>授業時間数</b>	45 時間			
				<b>授業形態</b>	実習	<b>授業回数</b>	- 回			
<b>授業の概要</b>	<p>実習施設において実際の臨床を見学することで言語聴覚療法に対する認識を高めることを目的とする。リハビリテーションの専門職につくための自覚を持つとともに、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法の活動見学を通し、挨拶、時間の順守、態度を含めた社会人としての在り方、対象者の尊厳の理解、対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>また、臨床現場における言語聴覚士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。実習後に個人面談を行い、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察し、実習を総括する。</p>									
<b>到達目標</b>	言語聴覚療法について具体的にイメージできる。社会人としての在り方を理解し、実行できる。言語聴覚士に求められる基本的資質を理解する。									
<b>学修者への期待等</b>	言語聴覚士の臨床活動の見学を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってもらいたい。そのうえで、次年度の学修における努力目標を明確にできることを期待する。									
<b>授業計画</b>										
<p>1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 9月4週～10月1週の間で1週</p> <p>2. 実習の目的 実習施設において実際の臨床を見学することで、言語聴覚療法に対する認識を高める。また、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) リハビリテーションの専門職に就くための自覚を持つ。 2) 他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。 3) 対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前3時間 実習後2時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 5) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>										
<b>教科書</b>	適宜紹介する。									
<b>参考文献</b>	適宜紹介する。									
<b>備考</b>										

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

本科目の担当者はすべて5年以上の経験を有する言語聴覚士である。その指導のもと言語聴覚療法の実際を学ぶ。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-CLM-02			
		●		●					
科目名	臨床神経学				単位認定者	渡邊 弘人 鈴木 將太 木村 有希 中川 大介	試験（筆記）	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
				授業回数	15 回				
授業の概要	リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患（一部損傷含む）を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知り、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。脳血管障害、外傷、脳腫瘍、感染症、変性疾患、遺伝性疾患に大別して学んでいく。								
到達目標	言語聴覚士にとって必要な臨床神経学の知識を習得する。授業と併せて、国家試験の過去問題を併せて確認することが望ましい。								
学修者への期待等	各疾患の特徴をとらえ、そのような患者に必要なリスク管理、臨床検査、治療を理解した上で、今後の支援や対応について方針を立てられるようになる。								
回	授業計画			準備学修			担当		
1	神経学的診断法1 (神経学的診断と評価・神経学的検査法)			【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）			渡邊 弘人		
2	神経症候学 1 (意識障害、脳死、植物状態、頭痛、めまい、失神)			【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）			渡邊 弘人		
3	神経症候学2（運動麻痺、錐体路症候、筋委縮）			【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）			渡邊 弘人		
4	神経症候学3（錐体外路症候、不随運動）			【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）			渡邊 弘人		
5	変性疾患1（Parkinson病）			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			中川 大介		
6	神経疾患各論1（外傷性脳損傷）			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			鈴木 將太		
7	神経疾患各論2（神経疾患の評価法・まとめ）			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			鈴木 將太		
8	変性疾患2（重症筋無力症）			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			鈴木 將太		
9	神経疾患各論3 認知症[Alzheimer病、脳血管性認知症]			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			鈴木 將太		
10	神経疾患各論4 認知症[前頭側頭型認知症、Lewy小体型認知症、原発性進行性失語]			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			鈴木 將太		
11	神経疾患各論5（筋ジストロフィー）			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			木村 有希		
12	神経疾患各論6（ダウン症）			【事後】配布資料を復習すること（60分）			木村 有希		
13	神経疾患各論7（二分脊椎）			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			木村 有希		
14	変性疾患3（脊髄小脳変性症）			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			中川 大介		
15	変性疾患4（ALS）			【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）			中川 大介		
教科書	「病気がみえる 脳・神経 vol.7」医療情報科学研究所 著 メディックメディア								
参考文献									
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-CLM-05			
		●		●					
科目名	リハビリテーション医学				単位 認定者	水尻 強志		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の 方法	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	リハビリテーション医学の歴史と定義、全人的復権に関する理念を学修し、各論では脳損傷（脳血管障害、頭部外傷）、神経筋疾患、脊椎損傷、肩関節疾患などの各種疾患のリハビリテーションについて学ぶ。さらには痙縮、疼痛、褥瘡などの合併症の管理方法やリハビリテーション栄養、神経学的評価、リハビリテーション科で行う生理的検査（神経伝達検査、筋電図など）について学び、リハビリテーション専門職として、また言語聴覚士として必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身につける。								
到達目標	1. 第一線医療機関で必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身に付ける 2. 嚥下障害の診断と治療を理解する								
学修者への期待等	リハビリテーション科専門医が、日常診療で重要だと考えている内容について講義をする。せっかくの機会であり、遠慮せずに質問をして欲しい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	リハ医学総論1 (ICFによる全人的評価)				テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。(30分程度)			藤原 大	
2	リハ医学総論1 リハビリテーションで行う検査(頭部画像、血液、神経生理学検査など)				テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。(30分程度)			藤原 大	
3	リハ医学総論1 リハビリテーションにおける栄養管理				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			藤原 大	
4	リハ医学総論2 (高齢社会と高齢者医療)				テキスト第1章 I 高齢社会と高齢者医療、第5章 関係する諸制度 参照。(30分程度)			水尻 強志	
5	リハ医学総論2 (リハビリテーション医学の歴史と定義)				テキスト第1章 I 高齢社会と高齢者医療、第5章 関係する諸制度 参照。(30分程度)			水尻 強志	
6	リハ医学総論2 (ADLと手段的ADL、廃用症候群と運動学習)				テキスト第1章 I 高齢社会と高齢者医療、第5章 関係する諸制度 参照。(30分程度)			水尻 強志	
7	リハ医学総論2 (超高齢社会における医療倫理の諸課題ー終末期医療、リスクマネジメントと身体抑制)				テキスト第4章 脳卒中医療に関する倫理的問題、第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			水尻 強志	
8	各種疾患のリハビリテーション1 (中枢神経障害の評価(脳血管障害など))				テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。(30分程度)			水尻 強志	
9	各種疾患のリハビリテーション2 神経筋疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など)、末梢神経障害				配布資料で復習をすること。(30分程度)			水尻 強志	
10	各種疾患のリハビリテーション3 小児疾患、脊髄障害、骨関節疾患、切断、義肢・装具、支給制度				配布資料で復習をすること。(30分程度)			水尻 強志	
11	合併症管理(痙縮 疼痛)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			阿部 理奈	
12	合併症管理(褥瘡とリハビリテーション栄養)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			阿部 理奈	
13	嚥下障害について(嚥下障害)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			金成 建太郎	
14	嚥下障害について(胃瘻と流動食)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			金成 建太郎	
15	嚥下障害について (誤嚥性肺炎とリハビリテーション栄養)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			金成 建太郎	
教科書	「脳卒中リハビリテーション」第3版 水尻強志・富山陽介(編) 医歯薬出版								
参考文献									
備考	講義は対面授業で行う予定。ただし、状況によってはオンライン授業に変更することもあり。								

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-CLM-07				
		●		●						
科目名	形成外科学				単位認定者	今井 啓道		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
							授業回数		15 回	
授業の概要	形成外科は、先天的あるいは後天的な体表の変形を手術的に正常な状態に復して、形態と機能、並びに精神的にもQOLを高め、社会復帰に益することを目標としている。本講義では、唇裂口蓋裂、頭頸部がん、開口障害をきたし得る外傷や熱傷、骨折、疾患による顎顔面変形など、治療対象疾患についての診断、治療原理や術式について学んでいく。さらには、言語聴覚士による手術前後のリハビリテーションについて、構音障害と摂食嚥下障害の評価と訓練を学修する。									
到達目標	頭頸部がんの治療における適切な再建手術について説明できる、口唇裂・口蓋裂について起こりえる障害を説明でき、成長期までに必要な手術について順次説明することが出来る。口蓋裂を呈する先天性疾患を挙げることが出来る。開口障害を呈する頭部顔面外傷を挙げることが出来る。									
学修者への期待等	教科書の記載のみでは理解しづらい形成外科の疾患に関して多くの臨床写真を呈示して理解を深めてもらいたい。資料では写真は十分に示せません。授業中に集中して勉強しましょう。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	形成外科総論 形成外科とは、創傷治癒と再建外科の基礎知識				特にありません			後藤 孝浩		
2	唇裂口蓋裂総論① 唇顎口蓋裂総論と疫学、発生学について				事前に配布される資料に目を通して おいてください。(20分程度)			今井 啓道		
3	唇裂口蓋裂総論② 学童期までに行われる治療について(唇裂手術、口蓋裂手術、顎裂部骨移植)				前回講義の小テストを復習し、事前に 配布される資料に目を通しておく こと。(30分程度)			今井 啓道		
4	唇裂口蓋裂総論③ 宮城県こども病院での口唇口蓋裂治療				特にありません			真田 武彦		
5	唇裂口蓋裂総論④ 学童期以降に行われる治療について(鼻咽腔閉鎖不全、唇裂鼻修正手術、顎矯正手術)				前回講義の小テストを復習し、事前に 配布される資料に目を通しておく こと。(30分程度)			今井 啓道		
6	頭蓋顎顔面外科・後天的顎顔面変形 頭蓋顎顔面外科についてと、開口障害をきたしうる 外傷や熱傷について				前回講義の小テストを復習し、事前に 配布される資料に目を通しておく こと。(30分程度)			今井 啓道		
7	唇裂口蓋裂総論⑤ 社会的問題、合併症の問題、親の心理的問題などについて				事前に配布される資料に目を通して おいてください。(30分程度)			真田 武彦		
8	口蓋裂を有する頭蓋顎顔面異常について 頭蓋顎顔面異常をきたす先天異常とその治療について				唇裂口蓋裂総論③の小テストを復習 し、事前に配布される資料に目を通 しておくこと。(30分程度)			真田 武彦		
9	頭頸部再建① 頭頸部がんの治療と再建の基本				前回講義の資料を復習してください (30分程度)			後藤 孝浩		
10	頭頸部再建② 口腔・中咽頭の再建				前回講義の資料を復習してください (30分程度)			後藤 孝浩		
11	頭頸部再建③ 下咽頭・喉頭の再建				前回講義の資料を復習してください (30分程度)			後藤 孝浩		
12	頭頸部再建④ 上顎その他の再建、術後の合併症やリハビリについて				前回講義の資料を復習してください (30分程度)			後藤 孝浩		
13	口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常 ・口蓋裂に伴う顎発達異常と歯の異常について				事前に配布される資料に目を通して おいてください。(30分程度)			中山 孝子		
14	咬合異常、顎変形症について				事前に配布される資料に目を通して おいてください。(30分程度)			中山 孝子		
15	人工材料による機能回復について				事前に配布される資料に目を通して おいてください。(30分程度)			中山 孝子		
教科書	特に指定の教科書を買う必要はありません									
参考文献	「標準形成外科学 第6版」平林慎一、鈴木茂彦(著) 医学書院 「嚥下障害の臨床ーリハビリテーションの考え方と実際」小椋脩(著) 医歯薬出版 「口唇裂・口蓋裂治療の手引」昭和大学(著) 金原出版									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-02

科目名	生涯発達心理学				単位認定者	木村 有希 中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	生涯発達心理学は、生涯を通じて成長・発達し続ける人間の誕生から死までの変化の特徴や、その過程の理解を目指す。本講義では、各発達段階(乳児期・幼児期・思春期・青年期・成人初期・中年期・老年期)における心理特性について知る。生涯発達という視点を重視し、多様な年齢層にある対象者を理解する一助とする。									
到達目標	人間は、一生を通じて成長発達し続ける。誕生から死までの人生を変化の特徴や、その過程を理解する。									
学修者への期待等	それぞれの過程の発達と課題を説明することができるようになってほしい。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	生涯発達心理学とは					【事前】生涯発達心理学について簡単に調べておく。(1時間)			木村 有希	
2	乳児期 ① (胎児・新生児・乳児の能力、乳児の自己感の発達)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			木村 有希	
3	乳児期 ② (アタッチメントと母子関係の発達、基本的信頼感、乳児期の発達のつまずきとケア)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			木村 有希	
4	幼児期 ①(身体能力・身体機能の発達 母親からの分離-個体化)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			木村 有希	
5	幼児期 ②(対人関係の発達、幼児の遊びの意味、幼児期の発達の課題)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			木村 有希	
6	児童期(読み書きの能力と計算、社会性、学校、発達のつまずき)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			木村 有希	
7	思春期 ①(心と身体の変化、親子関係、友人関係)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			木村 有希	
8	青年期 ①(アイデンティティの模索と確立、時間的展望)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			中川 大介	
9	思春期 ②(自己のめざめ、心理的失調、悩みへの援助)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			木村 有希	
10	青年期 ②(社会に出るための模索、発達のつまずきとケア)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			中川 大介	
11	成人初期(仕事、結婚、親になる、親になれない親)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			中川 大介	
12	中年期(クライシス、親子関係の変化、女性のライフサイクル)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			中川 大介	
13	老年期 ①(心と身体の変化、生きがいと幸福感、死をどう受け止めるか)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			中川 大介	
14	老年期 ②(家族・社会関係、認知症、施設入所高齢者の心理とケア、ライフレビュー)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			中川 大介	
15	まとめ(発達可塑性、パーソナリティの変化、ライフサイクルと家族)					【事後】配布資料を復習しておくように(1時間)			中川 大介	
教科書	『言語聴覚士のための心理学(第2版)』山田弘幸(編) 医歯薬出版株式会社									
参考文献	指定なし									
備考	国家試験過去問題を常から予習・復習しておくことをお勧めします。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LSG-02

科目名	言語聴覚障害診断学				単位 認定者	渡邊 弘人 中川 大介	木村 有希 中村 裕子	評価の方法	試験 (レポート)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	言語聴覚士が対象者と相対したときの基本的観察点を身につけ、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。本講義の前半では、初回面接において収集すべき情報と観察の視点、面接の方法、初診時評価の対象、障害範囲の絞り込みと全体像の把握、言語機能の観察としてはインプットとアウトプットの掴み方、及び観察所見の書き方を学修し、後半では聴覚系、高次脳機能系、言語発達系、運動系の各系ごとの言語病理学的な診断について学んでいく。									
到達目標	言語聴覚士が患者様と相対したときの基本的観察点を身に付け、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。									
学修者への期待等	基礎知識を基に、障害に応じて評価を行い、適切に検査を選定、実施できるようになることを期待する。									
回	授業計画					準備学修			担当	
1	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価 ① 医学的評価 (呼吸・循環・理学所見など)					【事前】摂食嚥下障害での講義資料を予習しておくこと (1時間)			中川 大介	
2	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価/診断 ② VF読影 (グループワーク)					【事後】講義の復習をしておくこと (1時間)			中川 大介	
3	成人領域の摂食嚥下障害の評価/診断 ③ VF読影 (グループワーク)					【事後】講義の復習をしておくこと (1時間)			中川 大介	
4	言語発達障害児に関する評価					【事後】講義の復習をしておくこと (1時間)			木村 有希	
5	言語発達障害児に関する評価・分析					【事後】講義の復習をしておくこと (1時間)			木村 有希	
6	聴覚系の評価 ① (グループワーク)					【事後】講義内容を復習すること (1時間)			渡邊 弘人	
7	ガイダンス：学ぶ視点について、診断とは？鑑別とは？					【事後】講義内容について1時間復習すること			中村 裕子	
8	診断の基礎：情報の収集と解釈、面接の方法、初心塩評価、他					【事後】講義内容について1時間復習すること			中村 裕子	
9	聴覚系の評価 ② (グループワーク)					【事後】講義内容を復習すること (1時間)			渡邊 弘人	
10	スクリーニングテストと総合検査、全体像の把握、他					【事後】講義内容について1時間復習すること			中村 裕子	
11	除外診断と鑑別診断、画像診断の意義と使い方、他					【事後】講義内容について1時間復習すること			中村 裕子	
12	具体的診断の技術 (1)：高次脳機能障害の鑑別のポイント					【事後】講義内容について1時間復習すること			中村 裕子	
13	具体的診断の技術 (2)：失語症の鑑別のポイント					【事後】講義内容について1時間復習すること			中村 裕子	
14	具体的診断の技術 (3)：失語症以外の言語障害と認知症の鑑別のポイント					【事後】講義内容について1時間復習すること			中村 裕子	
15	具体的診断の技術 (4)：事例による演習と総括					【事後】講義内容について1時間復習すること			中村 裕子	
教科書	『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害概論』 藤田郁代 医学書院									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-VDY-02				
		●		●						
科目名	器質性・機能的構音障害				単位認定者	木村 有希 須賀川 芳夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	器質性構音障害とは形態的異常に基づいて生じる構音障害である。機能的構音障害とは口腔・鼻腔・口唇などの構音諸器官の形態や機能に異常がないにもかかわらず、構音に異常が認められる障害である。本講義では、口腔顔面の解剖と定型的な顎顔面形態発育とその異常について学修し、器質性構音障害を呈す口唇口蓋裂・口唇裂児についての基礎知識と構音の評価・訓練、支援方法を修得する。機能的構音障害では定型的な小児の構音能力の発達について学び、異常な構音の評価と、その具体的指導技術について学修する。									
到達目標	器質性構音障害、機能的構音障害の病態について理解し、評価・訓練の実施が可能になる。									
学修者への期待等	器質性構音障害、機能的構音障害の特徴を押さえ、内容を深く理解することができることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	機能的構音障害とは/日本語の語音 機能的構音障害の概念、特徴/日本語の語音の表記法(音声記号)				配布された資料を復習すること。(約30分程度)			須賀川 芳夫		
2	構音障害の種類 機能的構音障害でみられることが多い構音障害等				配布された資料を復習すること。(約30分程度)			須賀川 芳夫		
3	構音のための検査1 新版構音検査(単語検査)				配布された資料を復習すること。(約30分程度)			須賀川 芳夫		
4	構音のための検査2 新版構音検査(単語検査のまとめ)				配布された資料を復習すること。(約30分程度)			須賀川 芳夫		
5	構音のための検査3 新版構音検査(音節検査、音検査、類似運動検査など)				配布された資料を復習すること。(約30分程度)			須賀川 芳夫		
6	訓練1 基本的な訓練の流れ				配布された資料を復習すること。(約30分程度)			須賀川 芳夫		
7	訓練2 語音別の訓練法				配布された資料を復習すること。(約30分程度)			須賀川 芳夫		
8	器質性構音障害の基礎知識 定義と疾患				配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。			木村 有希		
9	口蓋裂の基礎知識(疫学と言語障害)				配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。			木村 有希		
10	口唇口蓋裂の問題点				配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。			木村 有希		
11	幼児の指導・訓練の流れ				配布された資料を復習すること。(約30分程度)			須賀川 芳夫		
12	舌・口唇の形態異常と機能障害				配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。			木村 有希		
13	治療方針・手術				配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。			木村 有希		
14	口腔腫瘍1 口腔腫瘍の治療と問題点、リハビリテーション評価				配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。			木村 有希		
15	口腔腫瘍2 口腔腫瘍術後のリハビリテーションとその注意点				配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。			木村 有希		
教科書	「言語聴覚療法シリーズ 機能的構音障害」 本間 慎治 著 建帛社 「言語聴覚療法シリーズ 器質性構音障害」 齊藤 裕恵 著 建帛社									
参考文献	「わかりやすい側音化構音と口蓋構音の評価と指導法」 山下夕香里ほか(著) 学苑社 「構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 」 阿部雅子(著) 金原出版									
備考										
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-02				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 鈴木 将太 木村有希 中川 大介		実習先評価： 知識・人物・適正	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位	評価の方法	学内評価： 準備・報告書等	50 %
				授業形態	実習	授業時間数	135 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	<p>学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能と考察する能力を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から今後の課題と目標を考察する。さらには実習後の症例報告書の作成と報告会を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。</p>									
到達目標	適切な検査法を選択・実施し、総合的な評価ができる。さらに評価内容をまとめ、的確に説明することができる。									
学修者への期待等	自らの足りないところを明確にし、次の努力目標としてほしい。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 1月4週～2月3週の間で3週</p> <p>2. 実習の目的 学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能及び考察能力を向上させる。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) 治療プログラムの立案ができる。 2) 治療目標の設定ができる。 3) 言語病理学的診断を行い、問題点を抽出できる。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前8時間 実習後7時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査を選択し実施する。 5) 長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 7) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>										
教科書	特に指定しない。									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

本科目の担当者はすべて5年以上の経験を有する言語聴覚士である。その指導のもと言語聴覚療法の実際を学ぶ。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-07				
		●		●						
科目名	動作分析の基礎				単位認定者	櫻庭 ゆかり 木村 有希 中川 大介		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本講義では、解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、身体運動を自然科学的観点から学修する。患者の動作を観察し、動作の遂行能力を調べることは臨床現場で大変重要だが、どこを見、どのように解釈し、どのようにプログラムにつなげるかを修得することは容易ではない。本講義では身体運動の基本的な理解のため頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動を学び、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。さらに互いの運動観察や、動画を用いた対象者の運動分析を通し、結果を表現する能力を身につける。									
到達目標	それぞれの動作と動作分析のポイントが説明できる。観察する目を養い、自分で分析・考察する力を持つようになる。									
学修者への期待等	この講義の中では、自分で考えることや他者と話し合うことが多くあります。自分の意見を形にし、深いディスカッション・考察ができることを期待しています。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	動作分析の基本 身体重心とその分析				【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
2	床反力ベクトルと身体				【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
3	関節トルク・慣性の法則				【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
4	運動量と力積				【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
5	姿勢制御				【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと (概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
6	発声・発話時の動作分析				【事後】授業の内容を復習すること。(約30分)			木村 有希		
7	正常例の発声・発話時の分析①【観察・評価】				【事後】授業の内容を復習すること。(約30分)			木村 有希		
8	正常例の発声・発話時の分析②【グループ発表】				【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約1時間)			木村 有希		
9	症例の発声・発話時の分析①【観察・評価】				【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約1時間)			木村 有希		
10	症例の発声・発話時の分析②【グループ発表】				【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約1時間)			木村 有希		
11	摂食嚥下の生理・解剖(復習) 食事姿勢、食事動作について①				【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介		
12	食事姿勢について② (上肢・肩・体幹・頸部・下肢)				【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介		
13	食事姿勢と高次脳機能				【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介		
14	食事姿勢の介入方法、評価				【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介		
15	食事姿勢の観察、評価、(ディスカッション)				【事前】前回の講義内容を復習すること (概ね30分)			中川 大介		
教科書	『動作のメカニズムがよくわかる 実践!動作分析』 上杉雅之(監修)・西守隆(編著) (医歯薬出版)									
参考文献	適宜講義内で紹介する。									
備考										
※以下は該当者のみ記載する。										
実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)										

学修成果	1	2	3	4	5
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力
		●		●	

<b>科目ナンバリング</b>
ST-3-SOC-11

科目名	保険診療・介護保険制度				単位 認定者	櫻庭  ゆかり  渡邊  弘人 木村  有希  中川  大介 佐々木  仁	評価の方法	試験(筆記)	100 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数		1 単位		
					講義	授業時間数		30 時間		
					授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	日本の国民皆保険制度を維持する仕組みの中で重要な位置を占める診療報酬制度から、リハビリテーションの経済的側面について学ぶ。さらに、要介護・要支援に対する介護保険、児童福祉法を根拠法とした小児慢性特定疾病対策による医療費助成制度、難病法による難病医療費助成制度についても学び、対象者を支える制度への理解を深める。									
到達目標	① 言語聴覚士が病院経営にどのように貢献しているかを理解し、業務へのやりがいを見出す。 ② 医療費のしくみ理解することにより、患者様に寄り添った対応につなげる。 ③ 暮らしに役立つ医療費のしくみと保険制度への理解。									
学修者への期待等	国試のためだけでなく、理解することで自分の暮らしを豊かにする知識も含まれています。自分が患者様やそのご家族になった場面をイメージしながら受講してください。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	障害者総合福祉法による自律支援給付と地域生活支援事業について				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね90分)			渡邊 弘人		
2	身体障害者福祉法による身体障害者手帳、身体障害者更生相談所の支援について				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね90分)			渡邊 弘人		
3	地域生活支援 【生活期リハビリテーションと地域生活支援】				【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			中川 大介		
4	慢性疾患・難病患者における支援 【リハビリテーション、難病医療費助成制度 など】				【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			中川 大介		
5	地域包括ケアシステムと在宅医療				【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			中川 大介		
6	高齢者の地域生活支援(1) 【介護、施設サービスなど】				【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			木村 有希		
7	高齢者の地域生活支援(2) 【訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション など】				【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			木村 有希		
8	小児慢性特定疾病対策による医療費助成制度				【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			木村 有希		
9	介護保険の基本				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
10	介護保険のしくみ				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
11	介護保険のスタッフと事業所				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			櫻庭 ゆかり		
12	1. 医療費のしくみと診療報酬制度 2. 言語聴覚士の業務と診療報酬				【事後】配布資料を復習すること(概ね30分)			佐々木 仁		
13	3. 診療報酬の改定と医療機関の経営 4. 医療機関による医療費の違い				【事後】配布資料を復習すること(概ね30分)			佐々木 仁		
14	5. 医療保険の種類と医療費 6. 高額療養制度と保険外併用療養費				【事後】配布資料を復習すること(概ね30分)			佐々木 仁		
15	7. 公費負担医療制度 8. 介護保険制度				【事後】配布資料を復習すること(概ね30分)			佐々木 仁		
教科書	「世界一わかりやすい介護保険のきほんとしくみ 2021-2024年度版」 イノウ著 ソシム									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-03				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 鈴木 将太 木村有希 中川 大介		実習先評価： 知識・人物・適正	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位	評価の方法	学内評価： 準備・報告書等	50 %
				授業形態	実習	授業時間数	180 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。									
到達目標	指導者の指導の下、評価（方法の選択、問題点抽出など）、目標設定、訓練（プログラムの立案、プログラムの実施、介入考察）を実施できること									
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってほしい。そのうえで、今後の学修における努力目標を明確にできることを期待する。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 5月3週～6月4週の間で4週</p> <p>2. 実習の目的 診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、治療の実施から効果判定までの臨床課程を経験する。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、評価方法を選択し、実施できる。 2) 問題点を抽出し、ICFに基づいて整理できる。 3) 長期目標、短期目標の設定及び訓練プログラムの立案ができる。 4) 臨床実習指導者の指導のもと、治療プログラムを実施することができる。 5) 治療プログラムの妥当性や症例の全体像、一連の言語聴覚療法介入に関する考察をまとめることができる。</p> <p>4. 実習計画 <b>オリエンテーション 実習前25時間</b> 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 9) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>										
教科書	特に設定しない。									
参考文献	適宜紹介する。									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-04				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 鈴木 将太 木村有希 中川 大介		臨床実習施設 評価	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位	評価の方法	学内評価	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		180 時間	
				授業回数		- 回				
授業の概要	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の言語聴覚療法を提供しながら、臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになることを目標とする。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。さらには、実習後の症例報告作成と発表を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。									
到達目標	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。									
学修者への期待等	これまでの学修してきた内容の総括なるのが臨床実習Ⅳであるため、一つ一つの事柄に真摯に向き合い、自身の課題を見つけてもらいたい。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 6月5週～7月5週の間で4週</p> <p>2. 実習の目的 「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上をめざす。実習後、症例報告作成及び発表を通じて、臨床現場で身につけた知識の習熟を図る。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、再評価を行うことができる。 2) 症例再評価をもとに、チームアプローチ、予後予測、転帰に絡めた支援の方法などを考察できる。 3) 臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになる。</p> <p>4. 実習計画 <b>オリエンテーション 実習後15時間</b> 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 再評価と再評価の考察を実施する。 9) 再評価の結果を踏まえて、治療プログラムを見直す。 10) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 11) 実習期間終了後、臨床実習Ⅲまたは臨床実習Ⅳでの症例を選択し、実習報告書を作成し、提出する。</p>										
教科書	使用しない									
参考文献	適宜紹介する									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-02			
		●	●	●					
科目名	生命科学の基礎				単位認定者	渡邊 弘人 中村 裕子	木村 有希 裕子	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	生命科学とは、生命の営みを細胞・分子といったレベルで研究し、人の暮らしに役立てようとする学際的、応用的な学問で、近年、発展が目覚ましい。中でも生命に関する分野は、再生医療や遺伝子治療などリハビリテーション医療に従事する者として知っておくべき内容が含まれる。本講義では、最新の医療情報を理解する基礎を養成することを目的に、すでに学んだ細胞と神経、遺伝、代謝、免疫に関し、応用的に理解を深める。さらには生命を対象とする学問には欠かせない倫理学も併せて学修する。								
到達目標	言語聴覚士として臨床にあたる上で、医療・福祉専門職として担う責任と覚悟を学ぶ。さらに患者様へ示す尊厳の一つである「リハビリテーションのエビデンス」について、生命科学の基礎とむずびつけながら学修する								
学修者への期待等	臨床家として患者様に対峙する上で大変重要な内容となる。特に生命倫理、職業倫理は、人が人を診るということを深く考えなければならない。欠席せずしっかり受講してもらいたい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	細胞について、その構成と役割、エネルギー産生の仕組み（適宜ディスカッションを行う。）				関連領域の講義を復習すること。（120分）			渡邊 弘人	
2	細胞の働きを支える循環器系の構成とその役割について（適宜ディスカッションを行う。）				関連領域の講義を復習すること。（121分）			渡邊 弘人	
3	身体の防衛を担う免疫系について、その構成と役割（適宜ディスカッションを行う。）				関連領域の講義を復習すること。（122分）			渡邊 弘人	
4	リハビリテーションの視点での神経細胞の構成と機能（適宜ディスカッションを行う。）				関連領域の講義を復習すること。（123分）			渡邊 弘人	
5	言語聴覚障害に関わる神経領域①（高次脳機能障害）（適宜ディスカッションを行う。）				関連領域の講義を復習すること。（124分）			渡邊 弘人	
6	言語聴覚障害に関わる神経領域②（構音障害、嚥下系）（適宜ディスカッションを行う。）				関連領域の講義を復習すること。（125分）			渡邊 弘人	
7	身体の役割① 循環について				講義の内容について復習をすること（60分）			木村 有希	
8	身体の役割② 代謝について				講義の内容について復習をすること（60分）			木村 有希	
9	身体の役割③ 遺伝について				講義の内容について復習をすること（60分）			木村 有希	
10	生命倫理、臨床倫理の視点、職業倫理と倫理綱領 生命倫理、臨床倫理とは？言葉の障害を持つ人の尊厳を維持するにはどうするか。				講義の内容について復習をすること（60分）			中村 裕子	
11	職業倫理と倫理綱領 職業倫理と倫理綱領を「尊厳ある臨床実践」に活かすには				講義の内容について復習をすること（60分）			中村 裕子	
12	再生治療の現在				講義の内容について復習をすること（60分）			木村 有希	
13	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の基礎 倫理判断の方法 倫理的解決の原則				講義の内容について復習をすること（60分）			中村 裕子	
14	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の応用 倫理的臨床の実践方法－実習時に経験した事例を通して学ぶ				講義の内容について復習をすること（60分）			中村 裕子	
15	遺伝治療の現在				講義の内容について復習をすること（60分）			木村 有希	
教科書	①標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論 藤田郁代他 編 医学書院 ②言語聴覚障害療法シリーズ 改定 言語聴覚障害総論Ⅰ 倉内紀子 編著 建帛社								
参考文献									
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）**

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-13			
		●		●					
科目名	補綴・補装具論				単位認定者	櫻庭ゆかり 渡邊 弘人 木村 有希 中川 大介 高橋 慧		試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回		
授業の概要	本講義では、すでに各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から見つめ直す。その基本的構造と機能については領域を超えて学修し、義歯や軟口蓋挙上装置、及び各種補聴器など聴覚補償機器の意義、具体的な使用方法、適合判定について理解を深める。並びに義肢の種類と装着についての理解と使用方法を学修する。								
到達目標	各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から理解を深める。								
学修者への期待等	リハビリテーションの臨床において、補綴や補聴器、AAC、補装具は患者・利用者のQOL向上のためには大変重要な内容となる。そのため積極的な受講を望む								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	聴覚補償システム① 補聴器のフィッティング				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
2	補綴について 補綴とはなにか				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭ゆかり	
3	義歯の適合、顔面補綴について				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭ゆかり	
4	額義歯・軟口蓋挙上装置など				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			櫻庭ゆかり	
5	聴覚補償システム② 各種補聴器の機能とその適応				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
6	聴覚補償システム③ 人工内耳マッピング				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
7	乳幼児の補綴・装用の必要性とは				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			木村有希	
8	乳幼児の補綴・装用 Hotz床				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			木村有希	
9	義肢・装具① 基本構造・分類				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			高橋 慧	
10	顎接触補助床の装用に関する適応と装用効果				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			中川 大介	
11	軟口蓋挙上装置の装用に関する適応と装用効果				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			中川 大介	
12	顎接触補助床/軟口蓋挙上装置の装用時の評価・調整				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分			中川 大介	
13	乳幼児の補綴・装用 スピーチエイド				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			木村有希	
14	義肢・装具② 歩行補助具、車椅子				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			高橋 慧	
15	義肢・装具③ 介助方法、リハビリテーション、指導				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			高橋 慧	
教科書	なし								
参考文献									
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-14			
	●	●	●	●	●				
科目名	言語聴覚学特別講義 I				単位認定者	櫻庭 ゆかり 鈴木 裕一 渡邊 弘人 鈴木 將太 木村 有希 中川 大介 須賀川 芳夫		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
				授業形態	講義	授業時間数	60 時間		
						授業回数	30 回		
授業の概要	<p>言語聴覚士の仕事は、多くの基礎的分野に関する知識の上に成り立つ。本講義では、専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、言語聴覚士の幅広い臨床に対応できる人材を目指す。</p> <p>専門支持科目で学修した臨床歯科医学、呼吸系の構造・機能・病態、音声学、言語学について、総合的に復習し、言語聴覚士の臨床に対応できる人材を目指す。</p>								
到達目標	専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、専門展開科目とのつながりについて理解を深める								
学修者への期待等	専門支持科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	耳鼻咽喉科系疾患				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
2	言語発達(前言語期・幼児前期)のまとめ①				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			木村 有希	
3	聴覚系の解剖生理と疾患の関係性				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
4	中枢神経系、末梢神経系の構造・機能				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 將太	
5	言語発達(前言語期・幼児前期)のまとめ②				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			木村 有希	
6	聴覚系の解剖生理と聴覚検査				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
7	言語発達(幼児期後期)のまとめ				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			木村 有希	
8	聴覚の心理学的現象				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
9	中枢神経系、末梢神経系の病態、症状				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 將太	
10	呼吸系の構造・機能・病態①：呼吸系の解剖				関連資料を復習すること おおむね90分			櫻庭 ゆかり	
11	聴覚検査と心理測定法の関係				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
12	呼吸系の構造・機能・病態②：声帯と発声，検査全般				関連資料を復習すること おおむね90分			櫻庭 ゆかり	
13	基礎医学①：細胞と組織 発生 骨格筋				関連資料を復習すること おおむね90分			鈴木 裕一	
14	音声学：IPA全般				関連資料を復習すること おおむね90分			櫻庭 ゆかり	
15	音声学：スペクトログラムを読む				関連資料を復習すること おおむね90分			櫻庭 ゆかり	

回	授業計画	準備学修	担当
16	大脳の血流領域	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木 將太
17	基礎医学②：神経系 循環器系 呼吸器系	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木 裕一
18	基礎医学③：消化器系 内分泌系 睡眠と脳波 まとめ	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木 裕一
19	生涯発達心理学（新生児、乳幼児期）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
20	生涯発達心理学（児童期、青年期、老年期）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
21	認知・学習心理学(古典的条件付け、オペラント条件付け)	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
22	認知・学習心理学(視覚、記憶の効果)	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
23	各種評価法（FIM, BIなど）、リハビリテーション実施上のリスク、効果判定など	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
24	医学総論①：少子高齢化問題と日本人の死因と要介護の要因	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木 裕一
25	医学総論②：医療安全と感染予防 健康管理と予防医学	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木 裕一
26	言語学；言語構造、意味論など	関連資料を復習すること おおむね90分	櫻庭 ゆかり
27	言語発達(学童期期)のまとめ	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村 有希
28	知的障害のまとめ	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村 有希
29	音響学	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川 芳夫
30	教育制度関連	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川 芳夫
<b>教科書</b>	言語聴覚士国家試験必修ポイント2023ST基礎科目 医歯薬出版		
<b>参考文献</b>			
<b>備考</b>			

※以下は該当者のみ記載する。

**実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)**

--

## 言語聴覚学科 教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授 (学科長)	さくらば 櫻庭 ゆかり	櫻庭 研究室	022-738-7715	y_sakuraba@seiyogakuin.ac.jp
2	教授	すずき ゆういち 鈴木 裕一	鈴木 研究室	022-302-5480	yi_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
3	講師	わたなべ ひろと 渡邊 弘人	共同 研究室	022-738-7738	h_watanabe@seiyogakuin.ac.jp
4	講師	なかがわ だいすけ 中川 大介		022-738-7798	d_nakagawa@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	すずき まきひろ 鈴木 将太	共同 研究室	022-738-7836	ms_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	きむら ゆき 木村 有希		022-738-7815	yu_kimura@seiyogakuin.ac.jp
7	助教	えばた あや 江畑 綾			

## 言語聴覚学科 オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（1階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。